



さんのこうち
吉見町 三ノ耕地遺跡 第4次調査

三ノ耕地遺跡は、吉見丘陵の眼下に広がる沖積地内に位置する遺跡です。平成8・9年度に吉見町教育委員会によって実施された発掘調査では、縄文時代晩期の水場遺構や弥生時代の住居跡、前方後方形を含む古墳時代前期の方形周溝墓群、古代の道路跡や中世の溝跡など、さまざまな時代の遺構・遺物が発見されました。

今回の調査では、古代の溝跡、中・近世の土壌・井戸跡や溝跡などが発見されました。このうち、古代の溝跡は、吉見町教育委員会の調査で見つかった古代道路跡の延長線上に位置することから、古代道路の側溝であった可能性があります。



空から見た三ノ耕地遺跡

三ノ耕地遺跡（第4次）西側調査区全体図

(1:200)



底に「吉見」と刻印があります。

吉見焼の土瓶

東側調査区の土壌から、「吉見」と刻印された土瓶の底が見つかりました。江戸時代後期以降の遺物と共に出土しました。

鉄分の多い素地に、深緑色の釉葉が施されています。生産地はわかりませんが、吉見町周辺で作られていたのかもしれません。

近くの別の土壌からは鍋が発見されています。



第30・40号溝跡

吉見町教育委員会の発掘調査で見つかった古代の道路跡の延長線上から、溝跡が発見されました。同じ道路跡の側溝と考えられます。道路の路面は側溝の西側にあったと推定されます。

第30号溝跡からは平安時代の須恵器坏が出土しました。

2条の溝跡が並走していることから、側溝は掘り直された可能性があります。



第41号溝跡

中世から近世にかけて掘削された溝跡と考えられ、V字形に掘り込まれています。



第37号溝跡

溝が六角形に巡っています。奈良時代の須恵器杯や焼土が見つかります。

古代の道路に関わる施設の可能性があります。



第4号井戸跡

中世(鎌倉時代～安土桃山時代)に造られた井戸跡と考えられます。鎌倉時代頃に流通していた白磁が出土しています。